

郷土館発 思い出と思い

五月十三日、田口線車両のタ
イフォン（車のクラクシヨンの
ようなもの）の音とともに、道
の駅したらがオープンしました。
奥三河郷土館にも、大勢の方が
訪れてくださいました。

一階入り口で案内をしている
と、訪れる方々とお話したり、
見学される様子を見たりするこ
とができました。

「懐かし〜い。」という言葉が
よく聞かれるのは、一階にある
復元古民家と土びな展示のコ
ーナーです。

土びな展示では、「家にもあつ
て飾った。」「こんなにたくさん
種類があるなんて初めて知っ
た。」「男の私も節句の時に飾つ
てもらった。友達の家にもあつ
た。（西尾の方）」などなど、思
い出を言葉に出して見学される
方がたくさんいらっしゃいました。

そんな中、「どうしてこんな
にきれいな土びなが集まっている
のか。私の住む地域では、人
形に厄を背負わせ、お寺に納め
ることがほとんどで、残ること
はまれなのだが。」という方は、
尾張から来られたとのことでした。
北設楽郡では、土びなをお
寺などに納める習慣もあったよ
うですが、大事に仕舞い毎年節
句に飾る家が多かったようです。
私の家でも、男二人兄弟なので
すが、節句になると祖母が土び
なを飾ってくれました。飾り方

や残し方にも地方の差があるよ
うです。土びなという郷土資料
が、思い出を呼び起こすだけで
なく、地域による習慣の違いを
実感させてくれました。

古民家の前にあるかごに入っ
た鶏を見て、「昔こうやって飼
つとった。」「うちは放し飼いの
ほうが多かった。」と思ひ出話
をされる年配の方が多くいらっ
しゃいました。そんな中、時々
古民家の前で若い人が頭をかし
げる姿もありました。大戸の横
に小便器があり、解説がありま
す。その解説を最後まで読んだ
人が不思議そうなしぐさをする
のです。全く想像すらできない
明治時代の人々の暮らしへと、
思いを飛ばしているかのようで
した。

設楽町奥三河郷土館の展示資
料は、訪れる人の**思い出**を呼び
起こし結び付けたりして、思い
出を織りなすたて糸のような役
割を果たしています。また、若
い人に「あれっ？」という**思い**
を抱かせ、遠い昔の人のくらし
に思いをはせる触媒のような働
きもしています。二階の有料展
示室では、保護審の加藤会長や
金田学芸員も展示資料の前に、
たくさんの思い出や思いを聞い
たことと想一想います。

新しくスタートした奥三河郷
土館は、訪れる方々の**思い出**と
思いに満たされた素晴らしいも
のとなりました。

（奥三河郷土館長

渡邊 俊也）